

■ 学術功労 ■



元就実大、川崎医療福祉大教授

神原^{かん ぼら}

邦男氏^{くに お}
(80)

岡山市中区森下町

後楽園の価値を探究

1985年の就実女子大（現・就実大）史学科開設を機に、30年以上にわたって後楽園（岡山市）の歴史的价值を探究してきた。

福山市内の高校から京都の大学に進み、宗教、茶の湯など幅広く学んで日本文化史の道へ。同女子大で指導したゼミ生が後楽園を卒論のテーマに選んだことで、自身も研究に入り込んでいった。

教材としたのは岡山大がマイクロフィルム化した池田家文庫や、歴代藩主の日記。「学生らが史料を基に熱心に史実を明らかにした。受賞はそのおかげ」。成果を「御後園諸事留帳」「岡山藩主池田綱政の日記」といった著作にまとめ、学外にも広く発信した。

岡山の「宝」を多方面に生かすべく、保存と活用策を定める「岡山後楽園保存管理委員会」の中心的な役割を担う。「県民がもっと価値を理解し、岡山を発展させる力にしてほしい」との思いから、ボランティアガイドの養成役や市民講座の講師としても貢献する。

「文化とは前向きにものを考え、時代に応じて変化していく原動力」。岡山、後楽園の魅力向上へ、意欲は尽きない。（山内悠記子）